

令和6年3月定例会一般質問表

2月19日、20日、26日

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
1	3 番 山 口 裕 昭 議 員	<p>1. 災害に対する備えについて 先月、元日から能登地方を震源とする大きな地震が発生し、広域にわたって大きな被害が発生した。 被害の大きかった地域では、震度6強や震度7という想像しがたい程の揺れに襲われており、ある地域では住宅の8割以上が損壊しているとの報道もなされている。 私たちが暮らすこの置賜地域は比較的大きな地震が少ない地域ではあるが、西置賜地域には長井盆地西縁断層帯なども確認されており東日本大震災以降の地震発生頻度から考え、日本全国で地震に対して安心できる場所はないとの思いから以下の質問を行う。</p> <p>(1) 避難場所の状況について もし、能登半島地震と同規模な災害が発生した場合、市内全世帯1万世帯の8割の8千世帯が被災し、人口でいえば2万から2万5千人規模の避難民が発生する可能性が考えられる。 そのような中、現状の備えについて確認する。</p> <p>① 現在の市内災害避難所の総数。 ② 指定避難所の避難定員と、その定員総数。 ③ 特に高齢者では床に直に横たわることが非常に負担になる場合があるが、現在の段ボールベッド等や災害用毛布等災害備蓄品の常備数は。 ④ 今回の能登半島地震では長期的な停電の被害が発生していた。 停電になれば通常使用していた暖房器具が殆ど使用できなくなる事態が想定されるが、停電時の暖房に関してはどのような対策を行っているのか。 ⑤ 長期的な避難所生活では特に女性のプライバシーへの配慮が問題になる傾向があるが、その対策は今から考えられているか。</p> <p>(2) 民間を含む市内建物の耐震について 今回の能登半島地震では地震の複合波により被害が増</p>	市長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
1	3 番 山 口 裕 昭 議 員	<p>大したとの報道がなされている。</p> <p>東日本大震災時には本市周辺の震度は強いところで5強程度だったと記憶しているが、今回の能登半島地震では複合波による相乗効果で震度7を記録した地点が複数あり被害が増大した印象がある。</p> <p>本市直下には大きな活断層は現状確認されてはいないが、前述した長井盆地西縁断層帯をはじめ山形盆地断層帯の南部や米沢盆地断層帯に囲まれた地域となっており、また白竜湖周辺には軟弱地盤が多いなどの地域特性から通常時の備えは重要と考え以下の質問を行う。</p> <p>① 市内の指定避難所の耐震診断は行っているか。</p> <p>② 耐震診断の結果問題のある施設はないのか。あった場合の対策はどのようにされているのか。</p> <p>③ 市内の民間住宅を含む、現在の耐震基準以前の建築物はどの程度存在するのか。</p> <p>④ 市内の住宅で耐震補強を考えた場合、本市では補助を行うような仕組みはあるのか。</p> <p>(3) 今回の能登半島地震では長期間の断水や停電など、インフラに関係する問題が多く見られた。</p> <p>本市においても東日本大震災では数日間の停電が発生し、燃料不足により大きな混乱が見られたことは記憶に新しい。</p> <p>市民生活を守る観点からも平時での備えが大切だという観点から以下の質問を行う。</p> <p>① 被災地で現在大きな問題になっているのは長期化する断水の問題だが、本市の公設管は災害に強い仕様となっているか。</p> <p>② 東日本大震災では本市でも大規模停電が発生したが、その原因は送電網の影響によるものだったことはよく知られている。</p> <p>震災から12年以上が過ぎその対策は進んでいるのか。</p> <p>③ 特に冬期間に被災した場合、燃料が入手困難な状況は生命に直接関わる重大な問題となる。</p> <p>東日本大震災での教訓を活かした対策は講じられているのか。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
2	4 番 島 津 善 衛 門 議 員	<p>1. 令和5年度主要施策の総括 市長は、昨年3月の施政方針表明の冒頭で、「公正で持続可能な市政の実現と市民福祉の向上を目指してまいります」との強い決意を述べ、具体的な施策として8項目の各種施策を掲げられました。 この1年を振り返り各種施策の進捗や実績を伺います。</p> <p>(1) 新たな日常（ニューノーマル）を構築する ① 行政サービスにおけるDX推進の現状と、2月1日より開始された「書かない窓口システム」の市民の方の反応を伺います。 ② オンライン等を活用した各種移住相談会への参加、市のPR活動を推進、UIJターン者の増加を目指した取り組みについて、実績と自己評価を伺います。 ③ 県外に住む学生への将来的な帰郷や関係人口の増加につなげるとした事業の成果と、今後の問題点をどのように捉えておられるか伺います。</p> <p>(2) 健やかで安心な暮らし・子育てを実現する HPVワクチン（子宮頸がんワクチン）の積極的勧奨や、一般社団法人YAMAGATA ATHLETE LAB.（ヤマガタアスリートラボ）と連携した取り組みは市民の高い評価を得ていますが、下記の2点について考えを伺います。 ① 人口置換水準を下回る低出生率傾向が続いています。少子化問題は「静かなる有事」であり、経済の潜在力を低下させ、社会の安定性を低下させることとなります。今後の方向性を伺います。 ② 「走る・歩く」をきっかけに、市民一人1スポーツ意識を高め、健康体力づくりを進める取り組みについて伺います。 地域に根付かせる事業は長期にわたる取り組みが必要で、特に意識の浸透には時間を要すると思われまます。 また、積雪期間に活動できる屋内多目的運動場など、ソフト・ハード両面での整備が必要と思われまます。具体的にはどのような未来像を描いておられるのか伺います。</p>	市長 教育長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
2	4 番 島 津 善 衛 門 議 員	<p>(3) 地域に根ざした人材を育てる 市教育振興審議委員会では、各小中学校の適正規模・適正配置について十分検討する必要があるとしていますが、委員からは、もう動かなければならない時期だという意見がなされています。 (仮称)教育振興検討委員会の位置付け、役割、委員の構成等の進捗状況を伺います。</p> <p>(4) 力強い産業の基盤をつくる 今年度の市外からの企業の誘致や市内企業の新たな工場等への投資・雇用の実績を伺います。</p> <p>(5) 強くてしなやかなまち・住みよいまちをつくる 全国青年市長会への参加など、市長の県外での各種会議への参加が多く散見されます。 市民の方から「市長の県外への出張回数が近隣市町村長に比べ非常に多いと感じているがどうしてなのか」と聞かれることが多くなっています。 市長の県外出張に対する考えと市民に寄り添う姿勢の考え方を伺います。</p> <p>(6) 自然の豊かさを守る 行政・事業所・市民が一体となった、再生可能エネルギーの導入促進、省エネルギー活動等を推進しています。 事業所や市民との一体的な取り組みの実績を伺います。</p> <p>(7) 人がつながりまちを育てる ① まちづくりへの市民参画を進める取り組みとして、新たに南陽市自分ごと化会議が開催されました。 今年度の開催を振り返って見えてきた効果や課題を伺います。</p> <p>② 株式会社四季南陽が進める複合リゾート施設「四季南陽」の開業に向けた取り組み状況について、多くの市民の方々より「どうなっているのか」と問われます。 議会には詳細な説明をいただいておりますが、市民の方々にもわかりやすい状況説明が必要ではないでしょうか。 市長の考えを伺います。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
2	4 番 島 津 善 衛 門 議 員	<p>(8) 発信力のあるまちづくりを進める</p> <p>市報は「お知らせ」という形で、住民の求める情報というよりも役所が伝えたいことをお知らせする形態です。</p> <p>読んでいただけるための創意工夫は素晴らしいと感じていますが、一方通行的な広報では、興味や関心が湧きにくいという問題があります。</p> <p>市民参加型の情報のキャッチボールが不足すると、市民は街づくりや政策への参画意識が高まらず、連帯感が希薄化していく可能性があります。</p> <p>令和3年12月定例会の一般質問「シビックテック推進」の答弁で、情報弱者対策として、地域のシニア層の中からデジタル活用人材を育成し、地域の特性に合わせた情報活用研修を開催するとの答弁がありました。</p> <p>現在の状況を伺います。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
3	9 番 片 平 志 朗 議 員	<p>(1) 本市の有機農業の取組みの現状は。 (取組み農家数・耕作面積・栽培品種等)</p> <p>(2) 化学農薬と化学肥料を減らす取組みは。</p> <p>(3) 種苗法改正で農業経営にどのような影響があるのか。 (種苗法改正令和2年4月施行 従来の種子法は令和元年4月に廃止)</p> <p>(4) 遺伝子組換え作物について。 ① 健康と環境への影響については。 ② 遺伝子組換え、ゲノム編集作物を使用した食品の表示はどのようにになっているのか。</p> <p>※遺伝子組換え作物 他の作物の細胞から抽出した遺伝子を組換えて、新たな性質を持たせる手法。</p> <p>※ゲノム編集 酵素を用いてゲノム上の特定の箇所を切断し、DNAに突然変異を導入する技術。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
4	6 番 高 橋 一 郎 議 員	<p>令和6年度の施政方針について「南陽市に住んで良かった、住んでみたい南陽市」の観点から下記の質問をします。</p> <p>1. 人が集まり賑わうまちの具体策—本市の強みを活かして (1) ワインによる市全体のブランディング、たとえば、ワイン王国構想など、あっと驚くような産業・地域おこし策の考えは。経済効果はラーメンよりもはるかに上回ると思うがどうでしょうか。</p> <p>(2) スカイスportsによる市全体のブランディング、たとえば、白竜パラダイスと銘を打って十分一山、高つむじ山、白竜湖のさまざまなレベルアップの考えは。</p> <p>2. 年をとっても安心して暮らせるまち (1) 交通弱者の移動手段のベストミックスは。 本市にとって、一番良い移動手段はどう考えるか。バス路線、おきタク、デマンドタクシー、カーシェアリング、ライドシェアなど多くの移動手段がある。 特に、おきタク以外でバス利用も遠い地域からは不満の声が多い。同じ市民として、公平な受益共有の観点から、市長はこれらのベストミックスをどう考えますか。</p> <p>① コミュニティバス路線の乗車率は。利用低下の原因と他の手段を含む打開策をどう考えているか。デマンドバス等に切り替えの考えは。</p> <p>② タクシードライバー不足の現状、特に夜のタクシー台数半減で利用できないお客の不満がある。また、タクシードライバーの高齢化に伴う持続可能な経営に対する支援策等は。</p> <p>③ コミュニティカーシェアリングが立ち上がった場合の支援は。</p> <p>④ ライドシェアの導入の考えは。</p>	市 長 関係課長 市 長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
4	6 番 高 橋 一 郎 議 員	<p>3. 窓口対応の改善 (1) 行政窓口でのワンストップ対応について</p> <p>① DX推進により「行かなくとも済む市役所」「書かない窓口」を導入したが、市民の利便性の究極は「窓口でのワンストップ化」にある。特に、準備もせずにやってくる、たとえば、家族が死亡した場合は、ワンストップ対応が特に求められるが、本市の考えと今後の導入予定は。</p> <p>② 行政全般に対するワンストップ対応の考えは。</p>	市 長 関 係 課 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
5	13 番 板 垣 致 江 子 議 員	<p>1. さらに、住んで良かった南陽市、ワクワクする南陽市にするために</p> <p>(1) 世界に誇れる、南陽のワインを市民も観光客も楽しめる街に この1月の議会だよりの裏表紙には、発掘「南陽の歴史」日本ワインの聖地赤湯を取り上げられています。 ぶどう栽培の歴史では、紫金園初代園主が十分一山で栽培されたぶどうを皇室に献上したこともあり、全国でも折り紙つきのぶどう産地として広く知られるようになったこと。加工の面では1892年創業の酒井ワイナリーをはじめ、現在では市内に6社のワイナリーがある日本有数のワインの街になりました。 さらに全国流通量5%にすぎない「日本ワイン」の中で南陽産ワインはほぼすべて「日本ワイン」であることは大いに誇るべきで、「日本ワインの聖地」と言うにふさわしい赤湯なのです。と書かれていて改めて興味深く読ませていただきました。 私たち商工会女性部でも、昨年11月に南陽市の魅力、ワインを勉強する機会があり、ぶどう栽培園地や工場見学の後、ワインソムリエからワイナリー6社のワインの説明をいただき、それぞれのワインに合う料理も試食、参加した会員みんながワクワクしながら、美味しくいただきました。 昨年は4年ぶりにワインフェスティバルも開催され、市内外から約900人が訪れ、市内6社のワイナリーのワインとワインとのペアリングを楽しむフード店などもあり大変盛会だったそうです。いかに南陽のワインファンが増え、待ちに待っていたかではないでしょうか。 この歴史あるぶどう産業・世界に誇れる南陽のワインをもっと活用・アピールすべきと考えます。市長のお考えをおいいたします。</p> <p>(2) 地域おこし協力隊の今後について 地域おこし協力隊については、今までに何度か質問や提言をさせていただいてきました。毎月1日号市報に活動日記が掲載され、現在の活動状況が分かり、皆さん南陽市が好きで頑張っていてくれることは市民として大変</p>	市 長 関 係 課 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
5	13 番 板 垣 致 江 子 議 員	<p>嬉しいことです。11月のワインの勉強会にもワインを勉強中の田中さんと農チューバーの根^ね来^こさんに協力していただき有難いことでした。もっともっと市民と協力隊の交流は必要なこととおもいました。協力隊の今後についてお伺いいたします。</p> <p>① 現在の7名のうち3名が3年目の最終年度ですが、今後の活動や定住の状況をお伺いいたします。</p> <p>② 今年度で3名が抜け、来年度は4名になりますが、来年度も新たな募集を行うのか、募集するとしたらやはり農林関係だけの募集になるのか、お伺いいたします。</p> <p>(3) 南陽市の知名度アップのためにも魅力ある物産館を 昨年の3月定例会の一般質問で、道の駅的な物産館がないのは南陽市だけで、観光に来られた方が買い物するところがなく、米沢や山形に行ってしまう。「市民が頑張っている生産・製造している魅力ある南陽の物産を一堂に販売できる場所がない」と物産館の必要性を提案させていただきました。市長のお答えは、物産の販売や観光をはじめ、様々な情報発信には有益な施設と捉えているが、行政での経営は不採算のリスクが大きいと判断している。今後関係団体と情報交換を行いながら民間事業者による整備計画などには協力していく。という大変残念なお答えでした。昨年の12月の山口裕昭議員の知名度の質問に、市長は、様々な場面で本市の知名度不足を実感しているところを伺っています。本当にそうだと私たちもつくづく実感しています。</p> <p>あるホテルのフロントでいただいた「やまがた道の駅ガイドブック 2023 秋号」20か所の道の駅周辺スポットの案内。2024 山形新聞元旦号14ページにわたる「やまがた道の駅23か所ドライブすごろく」どちらにも南陽市の文字もありません。</p> <p>南陽市の知名度アップのためにも、地元産業活性化のためにも、魅力ある物産館が必要と考えます。市長のお考えをお伺いいたします。</p>	

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
6	5 番 高 岡 亮 一 議 員	<p>1. 4年間の議会をふりかえって 今年は昭和で数えると昭和99年、だれもがもう二度と繰り返してはならないと心底思って終わった戦争から足かけ80年になる。80年前、現在のモノの豊かさ、コトの便利さを予想できた人など、だれひとりとしていなかったはずだ。ここに至るまでのわれわれ日本人のがんばりにあらためて敬意と感謝を捧げたい。</p> <p>ただここに来て、大きな時代の変わり目を実感せざるをえない。国政レベルのゴタゴタはわれわれ地方の議会も無縁ではない。議会政治そして民主主義のあり方が根底から問われているのだと思う。カネに振り回される政治ではなく、生きてゆく上でほんとうに大事なことに目を向ける政治が求められるようになっていいると考える。</p> <p>そこで自らをかえりみつつ、今後の政治のあり方について考えたい。</p> <p>(1) 昭和42年以来の南陽市議会の歴史をふりかえり、市民の南陽市政への関わりについて考える。</p> <p>① 市議会議員選挙の投票率の推移</p> <p>② 近隣市町（一市二町）との傾向比較</p> <p>③ どう評価するか</p> <p>(2) コロナのせいもあったと思うが、22年ぶりに議会に戻って、あまりにあっけなく過ぎてしまった感がある。当局にしても議会にしても、特段揉めることもなくスムーズにことが運ぶに越したことはない。しかし、市民にとってはどうなのか。なんの疑問もないままに、お上の言う通りになれてしまう民主政治の危うさを思う。スムーズさになれてしまうのではなく、いろんな問題について論議が巻き起こることによってこそ、南陽市の活性化につながると考える。その視点に立った取組みが必要だ。どう考えるか。</p>	市 長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
6	5 番 高 岡 亮 一 議 員	<p>2. コロナ後の新たな日常（ニューノーマル）構築に向けて令和6年度の施政方針を読んで、「健康まちづくりの推進」に力を入れていることを評価する。しかし、マスクの心身に及ぼす弊害については周知であるはずなのに、今もってのマスク生活がニューノーマルとすると暗澹たる思いがする。同調圧力に屈することなく、まずもって自分の自然な感覚を信じて生きるということが、健康に生きることの第一義ではないのか。</p> <p>「健康に生きる」ことの対極は、「死ぬこと」である。コロナ後の日本の死亡者数の推移を見ると大変なことになっている。コロナ前の2019年と比べると、2020年はなぜか8000人減少。ところが21年が5万9千人4.2%増、22年は18万8千人13.6%増、23年11月までで14万4千人、1年換算で15.8%増。21、22、23年合わせると2019年以降の超過死亡は46万人に及ぶ。ワクチン接種との関連を思わざるを得ない。</p> <p>一方、2月4日現在、厚労省による新型コロナワクチン健康被害救済制度の認定死亡者は453名。ちなみに1月31日現在審査請求件数は1万135件となり、体制を強化しても追いつかない状況になっているという。</p> <p>こういう現実をふまえておたずねします。</p> <p>(1) 南陽市及び山形県の状況</p> <p>① 2019年からの死亡者推移</p> <p>② 2019年からの平均寿命推移</p> <p>(2) 南陽市及び山形県における新型コロナワクチン健康被害救済制度の審査請求件数と認定件数</p> <p>(3) 南陽市及び山形県における新型コロナワクチン接種副反応被害疑いについての厚労省への報告件数</p>	市長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
7	16番 佐藤 明 議 員	<p>1. 市の災害対策、対応について</p> <p>(1) 私は、南陽市全体の災害対策、対応について質問します。</p> <p>能登半島地震で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。自らも被災しながら懸命の救援活動を行っている地元自治体をはじめ、関係者の方々に心からの敬意と感謝を申し上げます。</p> <p>250人を超える死者・安否不明者を出した能登半島地震は1日、発生から1ヶ月余となりました。石川県では、1万4,000人以上が避難所などで生活を続けています。多くの避難者は体育館などで寝泊まりし、避難の長期化で心身ともに大きな負担を強いられています。ストレスなどの災害関連死も確認される中、被災者の命と健康を守る取り組みを強めなければなりません。住まいや生業を奪われた被災者は生活再建への不安にさいなまれています。希望を持って安心して暮らせる支援策を示し、実行することが政府の役割であり、責務ではないでしょうか。</p> <p>災害全体に対する市長のご認識、ご見解を賜りたいと存じます。</p> <p>(2) 住宅被害は甚大です。石川県内で4万7,000棟以上が全・半壊したり、一部損壊したりしました。亡くなった人の多くの死因は、倒壊家屋の下敷きになったことなどによるものでした。警察庁によれば調査した亡くなられた方、222人の死因の最多は「圧死」で41%です。「低体温症・凍死」も14%にのぼりました。建造物にはさまれ身動きが取れず救助を待つ間に寒さで体力が消耗するなどして亡くなったケースが少なくないと言われています。迅速な救助活動ができなかったことが悔やまれます。助かった命が長引く避難生活の中で失われることはあってはなりません。</p> <p>東日本大震災など過去の災害を見ると、発生から3ヶ月程度まで災害関連死が起きるリスクが高いと指摘されています。避難所の生活はまだまだ過酷です。温かい食べ物が届かないところも残されています。洗濯などができず衛生状態を保つのが困難なところも少なくありません。厳しい寒さも体の不調に繋がります。</p>	市 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
7	16番 佐藤 明 議員	<p>とりわけ高齢者は、生活環境の大きな変化で健康状態が急激に悪化しがちです。被災者の心や体の状態が保てるよう対応できる医療・介護・福祉などの体制を支援することは、政府は責任を持って力を入れなければなりません。市の具体的な対策、対応はどのように考えておられるか。</p> <p>(3) 石川県内で今も4万戸超が断水となっているのは深刻です。全面的な仮復旧は4月以降ということが、生活再建の大きな障害になっています。生活にも生業にも不可欠な水の供給、水道の早期復旧に知恵と力を集めることが急がれますが、市としての対策、対応はどのように考えておられるか。</p> <p>(4) 被害者の切実な願いは住まいの再建です。被災地は過疎と高齢化が進んでいます。住み続けられる地域を取り戻すために、住宅再建は極めて重要な課題と考えますが、その対策、対応はどのように考えておられるか。</p> <p>(5) 税の控除の対応は。</p> <p>(6) 災害基金の積み立ての考えは。</p>	